

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	25210
----------	-------

1. 開設大学	安田女子大学 文学部 日本文学科		開催方法 (キャンパス・施設)	■ 対面 (本学)		
				□ オンライン (同時・録画)		
2. 科目名	昭和の詩歌句を読む—感受性の大切さ— ・ 文芸創作論					
	学問分野	番 号	11・15	名 称	日本近代文学・文芸創作論	
3. 担当教員	外村 彰・吉目木 晴彦 (文学部 日本文学科)					
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	令和4年8月4日 (木) ~ 令和4年8月5日 (金)					
	8/4 (木) : 12時30分 ~ 14時00分 (90分×1回) 8/5 (金) : 12時30分 ~ 14時00分 (90分×1回)					
個別開講日	1回目 8/4	2回目 8/5				
5. 募集定員	40人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>1. 昭和の詩歌句を読む—感受性の大切さ— 8/4 12:30~14:00 (外村 彰)</p> <p>題目に記したように、昭和期に発表された詩・短歌・俳句の鑑賞を通して、日々を生きるうえで大切な「感受性」のありかをさぐる講義を実施します。</p> <p>採りあげる予定の作品について述べます。</p> <p>詩では、まず茨木のり子「汲む」で初々しさの大切さについて考えてもらいます。</p> <p>次に金子みすずの童謡詩「犬」を読み、他者の心に寄り添うことについて考えたいと思います。</p> <p>3作目は八木重吉の「心よ」を読みます。短い、純粋なあこがれの心象をかたどった詩です。それぞれ、ゆたかな感受性をもって読み解いてゆきたい詩です。——</p> <p>さて短歌と俳句は、このごろ教科書として『昭和の文学を読む』(仮題)を執筆した際に編集した、各20首+各20句を紹介し、それぞれのなかから任意の数作を鑑賞する予定でいます。</p> <p>たとえば短歌なら前川佐美雄の、</p> <p style="text-align: center;">いつさん じゆいん 一傘の樹陰にわがねるまつびるま野の蝶群れて寄しき夢を舞ふ</p> <p>俳句なら種田山頭火の、</p> <p style="text-align: center;">酔うてこほろぎと寝てゐたよ</p> <p>などを。——やはり感受性を駆使して、これら作品の魅力を味わう機会としたいと考えています。</p> <p>2. 文芸創作論 8/5 12:30~14:00 (吉目木 晴彦)</p> <p>小説を書く能力と、組み立て方の基本を講義します。</p> <p>1. 才能とは何か？ 2. 才能はどのように開花するか？ 3. リアリズム小説組み立ての基本形。 4. 小説家に必要な語彙とは？</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし					
9. 開講条件※1 あり・ <input type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数 (人) 定員超過の不許可は選考により決定					
	② 不許可・不開講通知日 (7月8日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月9日(土)以降の開講科目は6月末まで)					
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、オンライン(同時・録画)の使用ソフト、受講時の注意など 女子に限る。					
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ 開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。
コロナ禍の影響により、対面講座の不開講・休講またはオンライン(同時・録画)へ変更になる場合があります。